

日本ゲノム微生物学会
平成 24 年第 2 回評議員会議事録

日 時： 平成24年3月10日（土）19：00～20：30

会 場： 立教大学 池袋キャンパス 10号館 1階103号室

出席者： （会長）

小笠原直毅

（評議員会議長）

林哲也

（評議員）

朝井計、跡見晴幸、石川淳、板谷光泰、漆原秀子、大島拓、河村富士夫、
黒川顕、菅井基行、高見英人、田中寛、田畑哲之、戸邊亨、内藤真理子、
永田裕二、仁木宏典、野尻秀昭、吉川博文

（会計監査）

藤田信之、和地正明

（幹事）

吉田健一、大西康夫、中村保一、佐々木裕子、久原哲、有田正規、磯野克己

林哲也評議員会議長が、日本ゲノム微生物学会細則第 11 条により評議員会が成立する旨を報告して開会を宣言したのち、議事に入った。

審議事項

【第 1 号議案 2011 年事業報告】

小笠原直毅会長より、議案書に基づき、会員数の動向及び 2011 年の事業について報告が行われ、審議の結果、承認された。

【第 2 号議案 2011 年学会収支決算】

大西康夫庶務・会計幹事から、資料 1 に基づき、2011 年学会収支決算が報告された。また、本決算が適正であるとの監査結果の報告が、藤田信之、和地正明両会計監査により文書（資料 2）にて提出されていることが報告され、その場においても和地会計監査から会計が適正である旨報告された。慎重な審議の結果、2011 年学会収支決算は承認された。なお、賛助会員会費が予算を上回った理由は、1 会員 1 口の会費納入と控えめな見積を行っ

たが、実際には複数口の会費を納入していただいた賛助会員があったため、また、IUMSでのシンポジウム開催経費が予算より増加した理由は、当初計画した海外演者1名の招へい費用に加え、他の海外演者のIUMS参加費も支援したためであるとの説明があった。

【第3号議案 2012年事業計画】

小笠原直毅会長より、議案書に基づき2012年の活動計画が提案された。より多くの方が研究奨励賞へ応募してもらうための方策を幹事会・選考委員会で検討すること、若手の会開催を積極的に援助すること、ホームページのデザイン変更を行うことなどが確認され、事業計画案が承認された。

【第4号議案 2012年学会予算案】

大西庶務・会計幹事から、資料3に基づき、2012年度収支予算案について説明があり、ホームページ更新のための経費として10万円を追加計上する修正を行ったうえで、全会一致で承認された。なお、会長から、年会長および年会実行委員会の努力もあり、繰越金が増加する傾向にあり、新たに積極的な取組を行うことも可能な状況となっているため、新しい事業の実施についても検討していきたいとの提案があり、了承された。

【第5号議案 第7回年会（2013年）について】

小笠原会長より、池村淑道会員を年会長として長浜バイオ大学で開催すること、2013年3月8日(金)~10日(日)を開催予定日とすること、また長浜バイオ大学に後援を依頼していることが報告され、全会一致で承認された。なお、後期入試日程を確認した上で、開催日を最終決定することとした。

また、第8回年会については再び東京周辺での開催を検討していることが報告された。

なお、3月は農芸化学会、細菌学会等の関連学会の年会も開催されるため、年会を8月下旬等の他の時期に開催する可能性についても議論されたが、8月は大学院入試と重なることが問題であり、他にも全体が一致して適当と考えられる時期を見つけることができず、また、大学院学生の発表のためには3月が適していることを考慮して3月開催としたという経緯の指摘もあり、当面は3月開催とすることにした。

【その他】

前回の評議員会での確認に基づき、2年以上会費を納入していない会員の調査結果が報告された。その内、メールアドレス等の連絡先が不明となっている会員については、基本的に、学会会則第9条に則って退会手続きを行うことが確認された。また、年会に参加しているにもかかわらず、会費を納入していない会員がいるのではないかと指摘があり、その点を調査した上で、連絡可能な会員に、学会費納入の催促あるいは学会参加継続の意思確認を行うこととし、さらに次の年会からは年会参加者の学会費納入の有無を確認することとした。なお、インターネットからの会費納入についても引き続き検討することも確認された。

以上